

令和元年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		市民農園事業	担当課	経済課
総合計画	政策	活力にあふれるまち	計画期間	平成12年度～
	施策	農業の支援	種別	任意の事務
	基本事業	農産物の消費拡大支援	市民協働	
予算科目コード	01-060103-05 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 土地所有者から農地を借り上げ、区画単位で利用希望者に貸し出す。また、農園利用者に対し農具の貸出や堆肥を提供するとともに、農園施設の管理を行う。
都市化が進展する中で農業体験の場を提供するため、平成12年度に土に親しむ農園を、平成20年度に瓜代農園をそれぞれ開園した。	
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
市民農園で行う野菜や花等の栽培をとおして、作付け・収穫の楽しみを体験する場を提供し、併せて農業に対する理解を深める。	
（参考）基本事業の目指す姿	
消費者に本市の農作物や加工食品を身近に感じてもらう。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
瓜代農園における利用率が向上しない。また、農機具の故障等が多く、今年度は修繕費が増加傾向にある。	転入者へのパンフレットの配布（随時） 広報及びHP掲載（R2年1月） 市内イベントにおけるチラシ配布（随時）
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
使用料の検討や広報、HP等のこれまでのPR方法に加え、市内イベントにおけるチラシ配布等PR活動を実施し、情報発信の回数を増やす。 市民農園利用者に農機具の使用方を周知するとともに定期的な点検等を行い、故障を減らす。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	維持管理に必要な基本的経費のみであり、現状維持とする。

H30年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R01年度の振り返り）	
H30年度の評価（課題）	R01年度の取組（評価、課題への対応）
瓜代農園について、ホームページ、転入者へのチラシ配布等で周知活動のPR活動、イベント等で情報発信し、利用率の向上を図った。	ホームページや広報紙への掲載及びMOCCOフェスタや商工祭りを活用してのPR活動を行った。また、転入者へのチラシの配布を行った。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
土に親しむ農園利用率（％）	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
瓜代農園利用率（％）	68.59	64.00	63.46	86.00	86.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	PR活動を実施したが、瓜代農園の利用率はほぼ横ばいとなっている。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 維持 ☒ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	広報への掲載で利用申込があったため、広報への掲出回数を増やす。また、瓜代農園の利用率向上のため、市民農園利用者へのアンケート調査、近隣住民へのチラシ配付、PR活動等を実施する。				

コストの推移						
項目		H29年度決算	H30年度決算	R01年度決算	R02年度予算	R03年度見込
事業費	計	4,582	4,845	4,500	4,523	4,523
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	3,399	3,262	3,302	3,358	3,358
	一般財源	1,183	1,583	1,198	1,165	1,165
正職員人工数（時間数）		565.00	818.00	772.00	0.00	0.00
正職員人件費		2,317	3,415	3,168	0	0
トータルコスト		6,899	8,260	7,668	4,523	4,523

令和元年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		農が繋ぐまち地域資源連携推進事業（地方創生推進交付金事業	担当課	経済課
総合計画	政策	活力にあふれるまち	計画期間	平成29年度～令和元年度
	施策	農業の支援	種別	任意的事務
	基本事業	農産物の消費拡大支援	市民協働	事業協力
予算科目コード		01-060103-10 補助	根拠法令・条例等	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
平成27年，28年度において農産物等の地産品を有機的につなげ，地域資源の有効活用と地域活性化を活動目的とした「もりや循環型農食健協議会」が，グリーン・ツーリズム事業，直販販促事業，商品・メニュー開発事業等を実施し，人の流れを創出してきた。 この流れを持続，増加させるために，新たな取組を加え，事業を実施する。	これまで試験的に取組を実施している「もりや循環型農食健協議会」と連携し，下記の4事業を柱として市内の観光・農業資源等の地域資源を連携させ，人の流れを創出する。 ①グリーン・ツーリズム事業 グリーン・ツーリズムマップ，イメージ動画の作成及びイベント等の実施 ②直販販促事業 月3回の朝市の実施及び都内への出店 ③商品・メニュー開発事業 市内事業者や茨城大学との共同研究による商品・メニューの開発 ④都市近郊農業モデルの構築事業 事業者や茨城大学，国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構等の協力による都市近郊農業モデルの構築
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
農業を切り口に，地域資源（農産物・自然・文化）をつなげ生かす活動（朝市，グリーン・ツーリズム，商品開発）をとおして，加工業・飲食業・観光事業分野が自主的，かつ主体的に地域産業を発展させる環境を構築し，新たな農業就労者が育っていく環境を整備する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
地域資源やイベントを活用して，市内における賑わいを創出する。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
今年度で事業が終了するため，実施主体が自立する体制を確立する必要がある。	定期打合せを毎月1回以上実施する。 2月までに，実施主体が来年度実施する取組を策定させる。
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
実施主体に対し，来年度には自立することを打ち合わせの際に必ず確認し，意識付けを強化する。また，自立するために実施主体が行う方針を確認する。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☒ 削減	今年度で事業が終了するため削減とする。

H30年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R01年度の振り返り）	
H30年度の評価（課題）	R01年度の取組（評価、課題への対応）
都市近郊農業モデルの構築において、市のホームページにて、当該事業がわかるように、イベント等の開催情報を掲載した。	商品・メニュー開発においては、守谷産のそばを使用した「そば焼酎」を商品化し販売をした。また、グルメガイド配布（市内・市外・T X各駅）や市内店舗のイメージ動画を作成し、動画配信を実施した。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
イベント等における直販の売り上げ（千円）	0.00	17,748.20	20,816.58	0.00	0.00
グリーン・ツーリズム参加者数（人）	0.00	231.00	289.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
■向上 □横ばい □低下	イベント等における直販の売り上げについては、年々成果が上がっている。また、グリーン・ツーリズム参加者数も増加している。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
□拡大 □縮小 □維持	□改善・効率化 □統合 ■廃止・終了	本年度で3年間の事業が終了。今後は、自立するために実施主体が行う方針を確認する。 ＊事業終了のため、令和3年度の目標値設定はない。			

コストの推移						
項目		H29年度決算	H30年度決算	R01年度決算	R02年度予算	R03年度見込
事業費	計	11,362	18,431	15,136	0	0
	国・県支出金	5,681	9,212	7,537	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	9,219	7,563	0	0
	一般財源	5,681	0	36	0	0
正職員人工数（時間数）		484.00	450.00	178.00	0.00	0.00
正職員人件費		1,984	1,879	730	0	0
トータルコスト		13,346	20,310	15,866	0	0